

森林工芸館の

あれこれ

no.32
11
2022



pick up

N.O.5 オケクラフトの歴史 since 1983

オケクラフト 10周年に向けた動き

1989年

◎オケクラフト皇室献上品

1990年

2月 ◎勝山小学校木製学校給食器導入

オケクラフト展

勝山小学校給食試食会

3月 ◎アメリカ合衆国ベレア大学視察研修 **pick up**

5月 オホーツク木のフェスティバル(置戸担当)

7月 ◎東北工業大学第三生産技術研究室置戸分室開設 **pick up**

9月 ◎東北工業大学町並み調査実施

1991年

3月 ◎オケクラフト研修成果展

4月 ◎オケクラフト研修生設置要綱制定

アトリエときデザイン研究所落成

5月 ◎置戸町森林文化研究会解散

10月 ◎ベレア大学クラフト懇談会(訪問視察研修)

1992年

=クラフトパーク計画策定

◎境野小学校給食オードブル方式実施

4月 ◎オケクラフト研修生道外者受入開始

◎オケクラフト販売実習(レイバープログラム)開始

7月 ◎東北工業大学学長来町

9月 ◎置戸小学校・中学校木製給食器パン皿導入

10月 ◎工芸館工芸アドバイザー ロベルト・ベッシン招致

◎秋岡生活工芸資料展開始

1993年

=オケクラフト 10周年 **pick up**

1月 ◎オケクラフト新人展(クラフトセンタージャパン)

8月 ◎昭和の金物ゴミ曼荼羅展(東京)

9月 ◎全国竹とんぼ競技大会 in OKETO

ベレア大学交流会

12月 ◎オケクラフト共同工房開設

オケクラフト組合おけと新緑クラフト結成

ベレア大学(レイバープログラム)

東北工大置戸分室

オケクラフト十周年

【レイバープログラム(勤労体験)】
ベレア大学の特徴として、学科のひとつにレイバープログラム=勤労体験がある。その体験施設も学校が運営している。就労により生まれる収益は学費に充当されるほか、一部は学生に支給され、在学中に仕事を身につけることが大きな魅力となっている。(一九九一年当時)

生産と教育が一体となるまちづくりを目指していた置戸町にとって、手本となることから一九九〇年に二名の職員が視察に派遣された。

ベレア大学は、州ベレアの私立大学。「レイバープログラム」と呼ばれる勤労体験が義務づけられたユニークな教育と、ケンタッキークラフトのメンタルとして工芸活動の盛んな大学で、大学と地域が一体となり発展してきたという歴史的背景があり、大学が地域形成の母体となっている。クラフトパーク構想など、生産と教育が一体となるまちづくりを目指していた置戸町にとって、手本となることから一九九〇年に二名の職員が視察に派遣された。

【クラフトパークの基本構想デザイン】
分室長には置戸にゆかりのある人を求めて、オケクラフトの振興のためのデザイン活動、「オケクラフトのデザイン」、「生産環境のデザイン」、「地域の生活デザイン」などが任務としてあげられた。



販売の拠点となる森林工芸館が建設されたことにより、オケクラフトも新しい段階へと進み、五年間講師を務めていただいた時松さんの後継、研修生・専業者養成の展開、产地化計画など推進課題が焦點化してきた。これらの体制を確立するため、東北工業大学の置戸分室を開設し、人材確保を目指した。

東北工大置戸分室は置戸にゆかりのある人を求めて、オケクラフトの振興のためのデザイン活動、「オケクラフトのデザイン」、「生産環境のデザイン」、「地域の生活デザイン」などが任務としてあげられた。

結果、人材確保には至らず、人材が確保できずとも制度としては必要であったため、専任者が見つかるまで東北工業大学の研究室長が置戸分室長を兼ね、工芸館の職員を東北工業大学の客員研究员に嘱託することとなつた。

一九九三年、オケクラフト誕生から十周年のこの年、秋岡さんを提言者に「緑な生産 緑な生活」と題して、記念シンポジウムが開催された。そのほか、関連イベントとして「全国竹とんぼ競技大会」や、秋岡コレクションの展示会が東京で開催された。